

地域の力を活かした奈古地区の農地・水・環境保全活動と今後の課題・夢

1. 地域の特徴・背景と組織の立ち上げ

- 奈古地区は福岡県東部の京築地区の中央に位置する築上町平野部に位置する。
- この地域は、農業用のため池が876箇所もある。奈古地区でも7つのため池がある。
- この地域の高齢化率は約27.1%と高いが、特に奈古地区では50%を超える県下でも最高の率となる。
- 従来は、農業従事者が多かったが、高齢化により耕作ができない状況となり、ため池を約10軒で管理していたものが、1-2軒となり、管理できない状況にもなっている。
- そのため、耕作放棄地も増えている。
- このような状況の打開策として営農組合を組織化し、土地と耕作権を貸与し、そこから上がる収益の一部が地権者に支払われる仕組みができています。
- この地域は農業地域であり、高齢化の中で、施設の維持管理をいかに確実にこなせるかが地域の生き残りの課題であるともいえ、「奈古地区環境保存会」が平成19年度から立ち上げられ、「農地・水・環境保全向上」を目的として隣組6組を組織化した。1組あたりの人数は12-16人となっている。とくに、この活動は奈古老人会55名（65歳から100歳、平均年齢78歳）が中心となるものの、実際に活動できるのはそのほぼ半数となっている。



築上町の位置

2. これまでの地域づくり活動

(1) 水路・ため池の管理

- 地元には建設業者がいないため、水路・ため池の管理は、この会でできるだけ築城町建設課の材料支給制度を利用し、地元でできる作業は地元で行い、無理な箇所のみ業者に頼むことにしている。
- このような方法で安く上げることによって、作業箇所を多くするようにしている。
- 少子・高齢化の進んだ集落のため、他地区の人の登用を今年度から行っている。

(2) コスモスの播種活動

- この会では環境保全向上の一環として、花（コスモス・アジサイ）・苗木の植生を

行うこととしているが本年9月には地元保育園約10名と協働でコスモスの播種を行い、世代を超えた地域住民の交流と元気につなげる活動となった。11月には地域のまつりである厄神祭の時期にはコスモスが開花していることから地域の楽しみとなっている。



水・ため池管理の地域協働活動



保育園とのコスモス播種協働活動

3. 今後の取組課題

(1) 耕作放棄地の取組

- 耕作放棄地を再生する取組が農産物自給率向上にむけて大きな課題となっている。耕作放棄地の荒れ方は軽症から樹木の繁茂など重症のものまでである。
- 地域の自力で行えるのは、まず軽症の放棄地から対策を行うことが考えられるが、行政への手続きの事務手続きが煩雑だと、敬遠されがちとなっている。実態把握と共に、たとえば耕作を希望する人の募集とともに、直接的な賃貸関係によって放棄地が改善されるといった簡単な手続きになるように取り組みたい。
- 作業責任者は確保している。

(2) 水質環境の改善・管理への夢

- 水路・ため池の管理をもう一步踏み込んでいきたい。この地域には下水道が整備

されていないことから、下水の水路・ため池への流入など、水質悪化による生態系への影響があり、ホテルの生息可能な場所は地域のごく一部となっている。

- 水質の浄化については通常大きな費用が必要になるが、比較的やすい費用でできる技術があれば好都合である。
- 地域の材料支給制度の費用全てを個別で使用するのではなく、共有で取り組める費用として利用で切る仕組みを考えていける可能性がある。
- たとえば、最近、鉄イオンの供給によって水質浄化とともに生態系への寄与が期待され技術（杉本幹生法）が注目されている。これを活用することによって、例えば孫が帰省時にホテルを見て喜ぶくらいの水質に戻していきたいと考え、9月中旬には地域で開発者との意見交換会を開催している。

4. あとがき

- 高齢化率の高い当地区であるが、元気な高齢者が多い。歴史のある奈古地区を後世にも引き継ぐための地域活動に取り組んでいるところであるが、よき昔の自然環境への修復も含め、地域の連帯・連携を図っていきたいと考えている。

以上